GP 就業力 GOOD PRACTICE

文部科学省 大学改革推進事業
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」採択

持続型職業人SOZOプロジェクト

プロジェクト活動報告

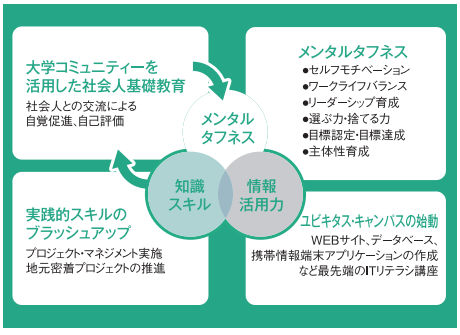
就業力育成とプロジェクト体験

持続型職業SOZOプロジェクト
事業推進責任者 佐藤勝尚

本学は、平成二十二年度以来、文部科学省にて採択された大学改革推進事業補助金（大学生の就業力育成支援事業）をはしらに魅力ある大学づくりに取り組んでいる。

この取組は、メンタル面とスキル面の両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトである。豊橋創造大学情報ビジネス学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科ではこれまで1学年170名程度の少人数を活かした密度の濃いキャリア教育、スキル育成プログラムによって、職業人として必要な就業力育成を行ってきた。その結果、就職率は90％を超え、フリーター、ニートを出さない大学として定着しつつある。しかし、就業後に目を向けてみると、卒業後数年内に安易な離職をしてしまう卒業生も存在し、その原因はストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に依拠するケースが見受けられる。

そのため、本取組では就業力育成のため、具体的施策を以下の４点を柱としてこれを推進する



本事業の概略図

1)メンタルタフネスの育成

セルフモチベーション、ストレスコントロール、目標設定などグループでの実技演習と座学を組み合わせて学生自身の経験値を高める教育プログラムの開発・展開する。

2)実践的スキルのブラッシュアップ

学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気付き・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通してプロジェクトマネジメント体験やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末を活用したITリテラシを体得させる事業を展開する。

3)上記２点を実現するためのユビキタス・キャンパスの始動

「持続型職業人SOZOプロジェクト」に特化したWEBサイト・データベースの構築・運用。大学と学生をインタラクティブに結ぶための携帯情報端末アプリケーションの開発・運用。

4)大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開

これまで多くの卒業生を地元へ輩出した強みを生かし、卒業生の人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学部生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。

本事業のうち、『実践的スキルのブラッシュアップ（プロジェクトマネジメントの実践）』では、就業力の「知識・スキル」を育成するとともに地元団体・地元企業との共同企画など組織的活動を実体験できる場を提供した。

「プロジェクトマネジメントの実践」は、情報ビジネス学部キャリアデザイン学科と短期大学部キャリアプランニング学科の学生をグルーピングし、自らが企画するプロジェクトを管理・運営させることによってプロジェクトマネジメント能力を育成することを目的とした。具体的には、携帯情報端末のアプリケーションを各プロジェクトが活用しながら、実際のプロジェクト運営を体験させ、その中でリスク管理、費用計算、資源の配分、チームにおけるコミュニケーションの在り方など、職業人として必要な実務的スキルを身に付けていく。これは情報ビジネス学部という強みと携帯情報端末を利用したユビキタス・キャンパスの始動という本学ならではの取組と言える。特に地元団体・地元企業との共同企画などを通して地元密着プロジェクトの企画・運営を中心に進める。

携帯情報端末を利用した最先端のプロジェクト管理アプリでは、検索エンジンや携帯情報端末の機能を利用したスケジュール管理、ドキュメント管理、タスク管理、情報共有、メール管理などの IT リテラシーを総合的に学ぶことを目的とする。対象者には携帯情報端末を配布することでその場でアカウントの設定や操作方法を直に学び、実践的スキルを身につける。特に、近年の就職活動においてはスマートフォンや各種 ITツールの活用が会社説明会の予約成否などに直接結びついており、IT リテラシーの向上なくして就職活動の成功は困難である。また、就職活動に限らず、スケジュール管理やドキュメント管理、メール管理等は現代の職業人として最低限必要となる資質能力である。このような最新のデバイスを配布・活用した教育例は非常に少なく、大学の教育改革のフラグシップ的な役割を果たす。

今回のプロジェクト活動報告書では、本事業のうち平成２３年度に『実践的スキルのブラッシュアップ（プロジェクトマネジメントの実践）』にて実施した、学部・短大それぞれのプロジェクト活動の内容について報告する。

最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。

SOZO

GP 就業力 GOOD PRACTICE

情報ビジネス学部 プロジェクト活動

1 「外食産業におけるロジスティクス・システムの研究」
―（株）物語コーポレーションを事例に―

担 当：石田　宏之

本プロジェクトの目的は、一つ目が、株式会社物語コーポレーション（以下『物語』と略す）を事例として、食材の仕入れから各店舗へ食材が供給（納品）されるまでの『情報の流れ』と『ものの流れ』の実態を調査することにより、ロジスティクス・システが『物語（企業）』に対して果している役割と機能を分析するこである。二つ目が、プロジェクト活動を通し、①メモの取り方・要約の仕方、②テーマの進め方、③分析力・理解力、④問題発見能力（本プロジェクトでは、これらを就業力基礎能力とする）を習得するとともに、協力企業との交渉、ヒアリング調査、施設見学を通して、①挨拶・応答態度、②コミュニケーション能力、③リーダーシップ、④報告・連絡・相談（本プロジェクトでは、これらを社会人基礎能力とする）を養うことである。

調査対象企業は、『物語』（本社購買部、店舗、麺工場）、ロジスティックの機能を委託しているワルツ株式会社および株式会社キユーソー流通システムの春日井流通センター（以下KRSと略す）である。

調査した内容は、物語コーポレーションのロジスティクス・システムの現状として、①顧客サービス、②店舗発注から納品までの「情報の流れ」、③KRSから各店舗納品までの「モノの流れ」、④春日井流通センターの役割を実施調査（3ケ所を計7回）し、そのまとめとして『物語』におけるロジスティクス・システムの役割と機能を①顧客サービス水準が果たす役割、②在庫管理の効果、③各機能のコスト削減効果、④就業力達成度、⑤問題点と今後の課題にまとめた。

4 豊橋市内小中学校の太陽光発電システム稼働状況調査

担 当：見目　喜重

エネルギー・環境問題、脱原子力への対応策として、クリーンで無尽蔵であり、かつ家庭など生活に身近な場所への設置が容易な太陽光発電の本格的な普及が望まれている。一方で、太陽光発電は設置方法により発電量が大きく異なり、またシステムの故障など長期信頼性に関する問題点も指摘されている。そのために、発電に関するデータの長期収集・分析が重要である。

本プロジェクトでは、平成21年度末までに豊橋市内全小中学校74校に太陽光発電システムが設置されたことから、太陽光発電の長期信頼性に関する基礎的なデータの収集・分析、生徒/児童のエネルギー・環境問題への意識を高める環境教育コンテンツの開発を目的に、市内小中学校のシステムの稼働状況および環境教育への取り組みに関する訪問調査を行った。

調査に当たっては、学生が事前に小中学校の担当者と日程調整を行った。その後の訪問時に、システムの設置場所、障害物の有無、発電量など稼働状況を確認するとともに、運転トラブルならびに環境教育への活用状況などの聞き取りを行った。

今年度の訪問調査の結果、太陽光発電の設置場所・方法は様々な制約から小中学校により大きく異なり、いくつかの小中学校では障害物の発電量への影響の詳細な調査が必要であること、この1年間はシステムのトラブルがほとんど生じていなかったこと、また環境教育へ太陽光発電システムを活用する際の課題などを確認することができた。

5 会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る

担 当：中野　一豊

私のプロジェクト活動では、豊橋市にある公認会計士事務所を訪問し、学生に業務内容や組織のあり方を質問させ理解させることにあった。その結果、所長氏から会計監査、税理士といった主たる業務の他に、ソフトウェアの販売とその初期指導、生命保険の指導業務当、幅広く活動している実態が分かった。また、会計事務所運営では、各担当者に関与先の会計業務を担わせ、最終的に所長代理がチェックするといった組織化がなされていた。苦労話として、地方ならではの魅力ある事務所造り（駐車場、緑の癒し、客と対応しやすい応接など）を信念としており、円満な相続対策を心掛けている実話も伺った。

事務所訪問の前に、本プロジェクト活動は学生の主体性に重きを置くため、実践面で会計処理の技法を習得させた。会計事務所で行っているような取引例を想定し、弥生会計ソフトを用いて入力させた。総勘定元帳、補助元帳、現金出納帳、預金出納帳、決算書の作成を出力させてみた。

同じ取引例なのに、全員が異なる結果となった。いかに、データ入力時に緊張感が欠如しているかを学生に諭し、社会における仕事としては落第であることを知らしめた。さらに、金融機関や会計事務所、一般企業の事務職への就職には、最低限の簿記や会計の基礎知識が必要であることを認識させた。そのため、後半は日商簿記検定試験対策に取り組んだ。4名中、2名が受験（3級）し、1名合格、1名はぎりぎりで残念！

受験対策と同じで、集中力を高める訓練を継続すれば、就業力支援にも繋がるであろう。

2 福祉施設の現状と紙芝居ボランティア

担 当：今井　久登

私たちのプロジェクトでは、ボランティア活動を通して福祉施設の現状を理解すること、入所者の方と触れ合うことを目的として、福祉施設に訪問してボランティア活動を行った。そして介護福祉の仕事および福祉施設が今必要としていること等、医療福祉分野への視野を広げることにした。

前期は紙芝居ボランティアを活動の中心とし、訪問施設の選定・訪問交渉、紙芝居上演を一つの流れとした。施設との交渉は主に電話で行い、電話応対のマナーや交渉内容のメモ取り等、実社会で役立つ能力の開発に努めた。また、こちらの意図が先方へ上手く伝わらず断られることが幾度もあり、メンタル面の強化にも繋がった。

後期の活動に入る前には前期の反省を行い、プロジェクトメンバー全員が訪問先施設の入所者の方や職員の表情から、活動に対する達成感・満足感を得ていない事が判明した。そこで後期は紙芝居上演をメインとするのではなく、入所者の方との共同作業を中心としたボランティア活動をメインとすることにした。これは先方に大変喜ばれ、言葉だけでなく気持ちも伝わるコミュニケーションがいかに大切であるかを体験することができ、私たちも皆さんの表情から大きな満足感を得ることができた。

今回の活動はテーマ選定から活動の反省・改善まで、一貫してプロジェクトメンバーの自発的な取り組みで運営できたことにより、それぞれの大きな自信につながった。

3 ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動

担 当：今井　正文

本プロジェクトでは、ビジネス系学生のための情報処理資格であるCompTIA Strataの電子コンテンツの改善活動に参加した。プロジェクト活動を通して、情報系の学習方法を習得するとともにそれを支えるコンテンツ事業の実際を体験することを目的とした。具体的には、ILA によって Web および iPad 用として公開される予定である電子コンテンツの開発活動に参加し、コンテンツのテストおよび報告と改善を繰り返し、併せて独自の小テストシステム開発も行った。

プロジェクト活動では、中間発表および成果発表等のおおまかなスケジュール伝達と必要機材等の技術的な質問以外は出来る限り学生に任せ、特段の指導を行わなかった。プロジェクト進行等も含めて学生に任せたため、最初は、作業分担から個別作業、チーム作業のスケジュールまで全ての段階で遅延等があった。
最終的にはチーム作業が出来ていた点については評価でき、また、独自の小テストシステムの開発にあたったチームでは、技術的にも相応の学習効果もあった。余談ではあるが、関連するメンタルタフネス講座のボードゲーム用計算プログラムページ等を自主的に作成した事も評価している。

一方、新しい発想やアイディアについて、学生たちにもう少し議論する場を設定すれば、より良い活動になったのではないかと反省している。成果物としての電子コンテンツの対外的評価については、本来の開発担当者からも学生の活動に対して一定の評価を頂けているようである。

6 社会的企業の実証研究

担 当：中野　聡

社会的企業は、企業家的戦略に基づく私的活動だが、利益の最大化ではなく経済的・社会的目標の達成を目的に据える。

その活動は、ネオリベラル（新自由主義的）構造改革（例えば小泉政権）が、小さい政府と福祉国家の危機をもたらしたことも背景に注目を集めてきた。営利企業は、全ての社会的に必要な製品やサービスを、適切な価格で供給しきれないからである（市場の失敗）。

このプロジェクトでは、東三河地域における社会的企業から、2 活動を取り上げ、その社会性や事業性、革新性を考察した。主目的は、学生が、社会科学の実証研究の方法を学ぶことにある。

サーラコーポレーションと関連企業の社会貢献事業から、メンバーは廃油のバイオディーゼル燃料（Bio Diesel Fuel, BDF）への再生リサイクルを選択した。この事業は、1997 年の京都議定書に起源をもつが、ここでは、“カーボン・ニュートラル”な（二酸化炭素を増やさない）燃料の開発が、今事業年度での黒字化を目標に、行政に先行する形で行われている。

東三河障がい者仕事センター（WACNET）は、“ニューヨーク・ファウンテンハウス”をモデルに、発達・精神障害者の自立・就業支援を行っている。誰でも来ることができる、誰からも必要とされる人間関係を築くことができるなどをモットーに、働く意志を尊重した多様な自立支援プログラムを提供している。

ここには、地域の未来を切り開く活動がある。今後は「社会的企業の比較研究」をプロジェクトテーマとして継続する予定である。

7 豊橋筆プロジェクト

担 当：花岡　幹明

本プロジェクトは『豊橋筆プロジェクト』と銘打ち、豊橋の伝統工芸である豊橋筆の幅広い普及と地域の活性化に向けた展開として、大学生によるアイデアの創出と商品企画およびPR活動を実践することを目的とした。

主たる活動は、（有）筆匠榊原の北村氏の指導のもとで筆商品づくりを学び、新商品の企画販売に至る全行程を学生のみの力で実践していくこと、並びに豊橋筆の普及・PR 活動として豊橋三大学チャレンジショップや本学チャレンジショップの活動を通じて、同世代の学生達と協働し、企画を実践していくことである。内容としては、①工房でのミニ筆ストラップの製造、商品パッケージに使用する画像使用許可申請、学園祭・チャレンジショップでの販売といった商品企画・販売に関すること、②豊橋筆の PR 活動としてのイベント開催および HP での情報発信の二点である。

プロジェクトの実践にあたり学生の希望や適性にあった役割を明確に与えたことで、責任感がモチベーションに繋がり、それぞれの活動成果に結びついた。学生からは『細かな点も妥協せず、使用する人のことを考えるモノづくりが大切』、『連絡の大切さ、様々な人と協力することの重要性を学んだ』、『企画趣旨や目的を明確に伝え、人とのつながり・人脈作りをすることが重要』などの感想が寄せられた。

また、東三河ビジネスプランコンテスト一般アイデア部門での最終審査発表という当初の目標を超えた成果は、学外協力者との連携によるところが大きく、学生の対外活動の成果として評価したい。

豊橋トップインタビュープロジェクト

8

担 当：三好 哲也

「豊橋トップインタビュープロジェクト」では、三河地区で著名な企業に訪問し、企業経営の哲学や視座を聞き取り調査し、WEBページで公開することを活動目的とした。聞き取り調査では、豊橋市もしくは三河地区を活性化するための方策やアイディアについての意見も取りまとめ、シティプロモーションの一助になる活動とすることも課題として取り組んだ。平成23年度には、株式会社平松食品、エフエム豊橋株式会社、サイエンスクリエイト株式会社、ヤマサちくわ株式会社、本多電子株式会社の5社を訪問し、インタビューを行った。特に後半の3社については、訪問依頼状の作成から訪問予約、インタビューの活動などの準備から実行まで全てを学生が主体的に運営した。また、インタビュー後、報告書の作成、WEBページの編集、編集原稿の校閲依頼もミーティングに基づき、作業計画と作業分担を決定し、プロジェクト運営管理が適切になされていた。

トップインタビューでは、それぞれの企業の成り立ちや強み、企業経営についての考え方や将来構想を、学生にわかりやすく説明いただいた。学生にとっても実践的な企業経営を体感できる有意義な機会となった。インタビューをするため関連知識を事前学習することによって、インタビュー内容を把握でき、その結果、コミュニケーションがとりやすくなることを理解したようである。

本プロジェクト活動は、学習の重要性に気づくことができる活動になったと評価している。なお、活動報告書は、2月下旬に、下記アドレスで公開予定である。

http://projectweb.sozo.ac.jp/miyoproj/

学食広報プロジェクト by学食おうえん団

9

担 当：三輪　多恵子

本プロジェクトでは『情報発信のための一連の活動』を体験することで、“受信者を意識したコンテンツ制作についての理解を深める”と共に、“Webサイトや紙面等を用いた広報活動のための様々な知識・技術を修得する”ことを目的とした。連携先として大学内にある2箇所の学食（キッチンSOZO, カフェテリア：日本ゼネラルフーズ株式会社）にご協力を頂いた。

主な活動として、Webによる情報発信（PC用／モバイル用サイトの運営）、印刷物の作成（ポスター、卓上チラシ）を行った。活動を通して、PC／モバイル用Webサイトの使われ方の違い、媒体による情報の伝わり方の違い等を学生自身が考え、アイディアを実践する機会を設けられたことは、講義では得られない貴重な経験になったようだ。またWebサイトは毎週、ポスターや卓上チラシは毎月の更新を目標として取り組んだ。学食スタッフの方への定期的な連絡やインタビューなど、学生同士で連携しながら目標を達成したことは、学生の自信に繋がったと思われる。

さらに、プロジェクト活動の一環として広告業界に就職した本学OBと面談する機会を設けたことで、制作物や活動内容についてのコメントや様々なアドバイスを頂くと共に、近年の広告業界の動向などについても興味深いお話を伺うことができた。本プロジェクトの内容は、広報や宣伝、企画、デザインといった職種に関連するものであり、これらの分野に興味を持っている学生にとっては、非常に有意義な経験になったと考えている。

東三河 Bible

12

担 当：吉川　優

我々のプロジェクトでは、地域貢献の一環として東三河のグルメ・温泉・観光・祭りについて個々に調べた情報をHPページにまとめ、蒲郡クラフトフェアへの出展と地元紹介ページとして公開することを目指し、コミュニケーション能力の向上を目的としてプロジェクトに取り組んだ。また、プロジェクト活動は学生の主体性や協調性を醸成するためのものとの観点から、参加メンバーの自発的な行動を主体とすることに留意した。

主な活動内容は、東三河の観光名所や魅力についての情報を調べ、実際に現地に足を運び自ら体験すること、完成度の高いHPを作成する方法を常に考えながらお互いの作業を確認しあうこと、HP作成請負企業を訪問見学し、担当者に話を伺うこと等である。

訪問先で伺った「HP作成は制作側だけの作業でなく、“依頼者の注文に従って作成し、完成したものを見せ、再度注文を受ける”を繰り返し、よりよいものを作成していく」との話は、メンバーにとって非常に刺激となるものであった。企業訪問後はメンバー間の会話も増え、積極的に相談しあう姿が見られるようになった。メンバー同士がコミュニケーションを取ることでチームワークが高まり、作業が効率よく進むことを実感したようだ。

後半はアクシデントが重なったことで作業に大幅な遅れが出てしまい、目標の一つであった蒲郡クラフトフェアへの出展には至らなかったが、終盤になって一つの形として落ち着き、一丸となって作業を進めることができた。

認定試験に受かるための学習環境と運営

13

担 当：五味　悠一郎

学内外を対象として、診療情報管理士認定試験対策講座（以下、対策講座）の企画運営を行なった。また、卒業生訪問を行ない、就職活動に役立つ知識の修得や就職先などの開拓も行なった。

本プロジェクトに参加した学生は2名と少なく、負担も大きかったようであるが、プロジェクトの終盤では期待以上の働きをしてくれるようになった。学生のプロジェクト自己評価アンケートを見ても、自分自身の成長を実感しているようである。初めての取組みということもあり、学外との連絡を教員が仲介する場面も一部あったが、次年度以降は学外との連絡も学生に任せてみたい。

対策講座の学外参加者は20名程度と、大学の知名度を向上させ、地域貢献することもできた。一般的に、大学が教育目的で実施するプロジェクトは連携団体の負担が大きく、WIN-WINの関係をつくれないことが多いが、本プロジェクトにおいてはWIN-WINの関係が構築できたと評価できる。関東地方や中国四国地方からも参加者を集めることができたのは、大きな収穫であった。客観的にも良い取組みだと証明されたので、次年度以降も継続していきたい。

卒業生訪問は一件しか出来なかった。卒業生訪問が大学経由で行われたことがなく、卒業生訪問を行う手続きを作るのに時間がかかったためと、医療系に就職した卒業生が少なく、訪問先選定が困難であったためである。次年度以降は卒業生も増えるので、今年度作成した卒業訪問の手続きを活用することで、より多くの訪問が出来ると期待している。

10 東三河における繊維産業

担 当：森田　和正

森田ゼミでは愛知県の伝統産業である繊維産業に着目し、繊維産業を事例とした就業研究をテーマとしてプロジェクト活動を行った。

中部地方の繊維産業は主要産業であるにもかかわらず、ASEAN諸国や中国との国際競争によって困難な状況にある。一方、そこで培われた技術や技能、経営手法は、他の産業に共通するものがある。そこで、繊維産業を例として産業構造を知り、社会的分業のありようを研究することにより、多様な産業分野への就業研究に役立てることを目的とした。

前期には繊維製品の川上である産業用繊維資材についての知識を深めるために、三河繊維技術センターを訪問し、衣類用繊維の原料調査の様子や繊維の強度実験を見学した。そして、海外からの低価格の輸入品が多く出回っていても、地域の繁栄している業種に的を絞り、消費者の意見を取り入れたニーズに応える商品を作ることで輸入品に対抗できることを知った。

後期には繊維産業の川下である製品企画・流通（卸売・小売）部門のアパレルメーカーを見学した。服のデザインから販売までには長い時間がかかり、基本的には1年位前から次の流行を予測してデザインを考案するとの事だった。天気予報士の一言で製品の売れ行きが大きく左右されることもあり、情報分析も大変重要であることが理解できた。

これらのことから、製品が消費者の手元に届くまでには幾つもの作業工程が含まれており、学生達は自分の適性を活かせる場があることを実感したようだ。この経験を自らの就職活動にぜひ活かしてもらいたいと願っている。

11 炎の祭典支援プロジェクト

担 当：山口　満

本プロジェクトでは、豊橋市の祭りである「炎の祭典」の昼イベントについて、動画素材を通じて広報し、地域振興に貢献することを目的として活動を行った。具体的には、豊橋商工会議所青年部（YEG）のメンバーで運営される「炎の祭典」委員会の協力を得て、（1）炎の祭典委員会および炎の祭典当日の取材（ビデオ撮影）、（2）広報用動画の作成（取材ビデオの編集）、（3）動画公開用Webサイトの作成を実施した。プロジェクトメンバーは山口ゼミ所属の3年生2名であり、上記の実践を通じて座学では得難い様々な知識と経験を獲得させ、また、コミュニケーション能力やタスク管理能力を養うことも目的とした。本活動の成果は、本学Webサーバーにおいて公開中である。

（http://projectweb.sozo.ac.jp/myamaproj）

当初は学外の方とのやり取りに戸惑い気味であった学生も、委員の方々と会話を重ねるうちに、自然に目上の方との話し方・接し方を身につけたようである。また、大学の名前を背負って活動していることを自覚し、無責任な行動・対応にならないよう努力していたようであった。学生のアンケート回答によると、「自らの意見を主張することができたか」の問いに「そう思う」と回答しており、本活動を通じて成長した様子が伺える。今回の活動については関係の方々から多数のお褒めの言葉をいただき、また、次年度以降も活動を継続して欲しいという声をいただいているため、今年度の経験と反省を踏まえ積極的に検討していきたい。

プロジェクトマネジメントの効果
プロジェクト活動報告

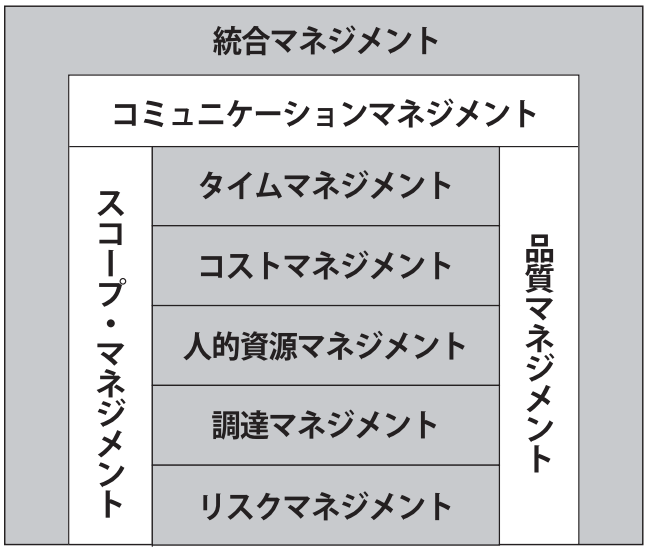
担 当：村松　東

プロジェクトとは、ある成果物やサービスを創出するために、プロジェクトチームを組んで行う期限のある活動のことをいう。世界最大のプロジェクトマネジメント団体であるPMI（Project Management Institute）がプロジェクトマネジメントの知識を体系化したPMBOK（Project Management Body Of Knowledge）では、プロジェクトを「独自のプロダクト、サービス、所産を創造するために実施される有期性の業務である」と定義している。プロジェクトを成功させるためには、プロジェクトマネジメントというプロジェクトを適切に管理する作業が必要となる。

プロジェクトマネジメントとは、プロジェクトが目的を果たすために必要な知識やスキルなどを利用して、上手に進める管理活動をいう。プロジェクトチームで設定した目標を達成するためには、人（チームや外部組織）、タスク、スケジュール、費用などをバランスよく調整し、全体の進捗状況を的確に管理することが求められる。

適切なマネジメントが行われているプロジェクトでは、プロジェクトで行うべき作業が事前に明確になっており、作業を行う担当者や作業の所要時間が決定されている。プロジェクトの進捗状況や費用の発生状況は逐次監視され、プロジェクトの計画からずれが発生した場合には、適宜対応を行う。このため、いつプロジェクトが終わるのか（スケジュール）、いくら費用がかかるのか（費用）などを予測することができる。このように、プロジェクトの進捗管理を行うことがプロジェクト活動には重要となる。

持続型職業人SOZOプロジェクトのプロジェクト演習において、学生が企業をはじめとする外部組織と共に具体的なプロジェクトに取り組み、企画・運営・進捗管理・報告といった４段階のプロセスを踏まえた実践を通して、目標の実現に向けた事業運営への理解を深めることができたことは成果であった。



図表：PMBOKの９つの知識エリア

GP 就業力 GOOD PRACTICE

キャリアプランニング科 プロジェクト活動

1 食の伝達「大学生コックさんのクッキング（子どもクッキング）教室」プロジェクト

担 当：朝倉 由美子

調理を学ぶ中で自らの技術向上のためだけでなく、他者に指導することで自身の技術や知識等の問題点の確認をすることは大きな意義がある。年間４回の小学生を対象にしたクッキング教室を開催して、調理技術をはじめ、料理の楽しさや協調性を伝える活動の中から、開催に伴うさまざまな過程を経験した。メニューの決定、試作、材料発注、配布レシピの作成、タイムテーブル作りや危険の予想に対する準備、そして当日の進行など分担を決めて話し合いながら進めた。「野菜を多く食べられて、かつ美味しい献立の発信」をテーマに、郷土料理や豊橋で生産量の高い農産物を使う献立を取り上げた。ふれあいながらも怪我をさせない事に細心の注意を払い、様々な想定外の場面にも遭遇しながら、臨機応変に対応でき、とっさの判断力や実行力を身に付けることができた。

2 「豊橋産の野菜と米粉を使った焼き菓子の開発」プロジェクト

担 当：朝倉 由美子

農業が盛んである豊橋で調理を学ぶ中で、セミナーでは「野菜の摂取量を増やす取り組み」を掲げて活動している。そこで、農産物への関心を高め、農産物の６次産業化への提案の一つにしたいと、米粉と豊橋の農産物（主に野菜）を組み合わせた新たな製品を考えようと、野菜入りの焼き菓子の製品化への取り組みを始めた。試作品のアンケートによる市場調査を行い、今後の製品化への問題点の検討を行った。取り組み自体には未知の製品作りに学生は意欲的であったが、製品化への壁も多いことを経験した。今後への反省と課題を出し合い製品化実現に向けて経過体験を重ね、創造力と実行力の向上が図ることができた。今後は別の焼き菓子も視野に入れつつ、授産所等への製造依頼に向けての取り組みも検討して進めていく予定である。

3 豊橋の祇園祭を考えるプロジェクト

担 当：今泉 仁志

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、全国に自粛ムードが広まる一方で、こういう時だからこそ祭りや花火などによって活性化をはかろうという動きがあった。全国の夏祭りはどうなるのだろうか。そもそも、伝統的な祭りは、現代において街の活性化とどう関わりあっているのだろうか。そんな問題意識から、地元豊橋の代表的な夏祭りである豊橋祇園祭をテーマに取り上げた。

手筒花火奉納の日である 2011 年 7 月 15 日を目標にしてプロジェクトを進めた。プロジェクト活動の時間が限られ、手筒花火は「男の祭り」の面が強いことから、ゼミ時間外の情報収集は教員が手助けした。iPad を活用し、情報共有が円滑に進められたのはよかった。学生には、豊橋祇園祭というものがとても新鮮に感じられたようで、町内会に支えられた祭りであることがよく理解でき、豊橋伝統の手筒花火はこれからも続けていってほしいという感想であった。

4 ライスフラワー プロジェクト

担 当：木下 賀律子

我が国の米の消費量は年々減少傾向にあり、米を巡る状況は厳しくなってきている。日本の食糧自給率は 39%（平成 22 年度）と主要先進国の中で最低の水準となっている。このような社会情勢を踏まえ「米・米粉」をテーマに掲げ、食料自給率向上に向けて取り組んだ。

事前学習として①米粉の製造工場の見学②米粉専門の洋菓子店訪問③米粉の販売状況の現地調査の3グループに分れて、米粉の情報収集に努めた。また学園祭を利用して「米 & 米粉フェア」を開催し、料理の作品展示や米粉料理の講習会を実施した。特に料理講習会では学生達が自ら講師となって、来場者（卒業生や地域の方々）の前で米粉の使い方や料理法を紹介した。

これらの活動を通して、米粉の需要拡大に向けて些かなりとも貢献することが出来たと考えている。

防犯プロジェクト

5

担 当：千賀 博巳　中島 剛

働く意欲と意識の向上を目指して、「人と人のつながり、絆を大切にして学生生活を送るために、自分たちに今何ができるか。」を考え、防犯ボランティア活動を始めた。地域を巡回し、あいさつ運動や清掃活動を行いながら地域の人たちと交流を図り、防犯上心配な個所はないかを調べた。また、より広い防犯ボランティア活動を行うために、防犯チーム（Clean Team SOZO）を発足させて、防犯キャンペーンに参加したり青少年立ち直り支援のための活動に参加した。活動日は授業後や土曜、日曜であったが、多くの学生が参加し、地域の人たちや防犯キャンペーン参加者などと積極的に交流を図った。ある学生の感想に「小さなことの積み重ねが地域の安全・安心という大きなものにつながると気付きました。」とあったが、今後もこの活動を進めながら学生の成長を図っていきたい。

身近な自然発見・発信プロジェクト

6

担 当：寺本 和子

愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ自然を有しています。しかし、現状は決して楽観できません。私たちプロジェクト参加者は、ＮＰＯ法人東三河自然観察会の指導を受けながら、東三河の自然の現状を知ることに努めました。野外での自然観察の機会は３回しかありませんでしたが、自然観察は楽しく、自然に対する感性を養うことができました。また、社会人との交流は、今後、社会に出るに当たっての良い経験になりました。一方、自分たちの知りえた情報を伝え、少しでも東三河の自然を守ることにつながればという期待を持って、すべて学生たちによって作成されたホームページを立ち上げ、観察結果を公表しました。このことは、ＩＴリテラシーの育成に役立ったと考えられます。

医療機関の貼り紙適正化プロジェクト

7

担 当：細谷 邦夫

医療機関の中に貼られている掲示物は、お世辞にも綺麗とは言い難いだけでなく、情報が散らばりがちで、患者さんに対して伝えたい情報が伝わり切っていないのではないかと考え、本プロジェクトを立ち上げた。プロジェクト実施にあたっては、豊橋市内の３医療機関のご協力を頂き、学生は院内掲示の法的側面を事前学習のうえ現地調査をし、A1サイズの掲示物にまとめることができた。また創造祭において、卒業生との意見交換をする中で、患者さんの目線は年齢や体格などによって変わることを学んだ。

学生にとっては、医療機関が患者さんに対してどのような事を伝えたいのか、受付の方々がどのような事に困っているのかを学ぶことができ、医療秘書検定のプラスアルファを得ることが出来たのではないだろうか。

I♥ROSEプロジェクト

8

担 当：村松 史子

東三河南部は温暖な気候を利用して農業や花の栽培が盛んである。渥美の薔薇園（渡辺氏）の協力を得て、薔薇の栽培方法・流通の仕組を理解し、商品として学園祭で販売するまでの過程を体験的にとらえようと考え、プロジェクトに取り組んだ。当初、豊橋～渥美の遠距離のことが問題になった。学生たちは、「ブログ」を利用することで問題解決を図った。薔薇園から発信される生育状況を見ることによって状況の共有ができ、薔薇に対する意識が高まってきた。その後、８月に薔薇園を訪問した。

学園祭で薔薇の完売を目指し、事前にラッピングの仕方の指導を受け、戸惑いながら販売を開始した。徐々に活気も出て、盛況のうちに目標の薔薇の完売を達成できた。利益を「東日本大震災寄付金」として中日新聞社へ届け、本プロジェクトを終えた。

平成23年度就業力育成支援事業活動状況

実施日	行事名
4月12日	第1回「豊橋を知る」キックオフ講演会
4月19日	第2回「豊橋を知る」キックオフ講演会
4月20日	第1回　携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月21日	第2回　携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月26日	第3回　携帯情報端末アプリケーション導入説明会
4月27日	第4回　携帯情報端末アプリケーション導入説明会
5月23日	第1回　職業研究
6月8日	社会人基礎講座
6月20日	第2回　職業研究
6月27日	第3回　職業研究
6月30日	キャリアプランニングⅠ
8月8日・9日	メンタルタフネスアセスメント講習
8月9日	情報ビジネス学部　プロジェクト中間発表会
9月6日	セルフモチベーション講座
9月24日	業界別交流会
10月23日	短期大学部　在校生＆卒業生交流会
10月25日	メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座（1）
12月17日	メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座（2）
12月21日	キャリアプランニング科　プロジェクト成果発表会
12月22日	情報ビジネス学部　プロジェクト成果発表会

プロジェクト連携企業・団体一覧

- 愛知県三河繊維技術センター
- 飯田市立病院
- S. I. plant
- NPO法人 インターネットラーニングアカデミー
- (株) エフエム豊橋
- 小野田内科
- 小畑耕一公認会計士事務所
- 蒲郡市民病院
- (株) キユーソー流通システム 春日井営業所
- (株) サイエンスクリエイト
- (株) サーラコーポレーション
- 総合病院三原赤十字病院
- (医) 田中会西尾病院
- 東京医科大学八王子医療センター
- 鳥取赤十字病院
- 豊橋観光コンベンション協会
- 豊橋市教育委員会教育政策課
- 豊橋市企画部広報広聴課
- 豊橋市企画部政策企画課
- 豊橋市産業部産業政策課
- 豊橋市企画部シティプロモーション推進室
- (福) 豊橋市社会福祉協議会
- 豊橋市総合福祉センター あいトピア
- 豊橋商工会議所地域振興部地域振興課
- 豊橋商工会議所青年部炎の祭典委員会
- 豊橋筆振興協同組合
- 南部デイサービスセンター
- 日本ゼネラルフード (株)
- 東三河障がい者しごとセンター
- 広島国際大学
- ヒロタ(株)
- (株) 平松食品
- (福) 福寿園 昭和の里
- (有) 筆匠　榊原
- (株) ブレインシティ
- (医) 鳳紀会可知病院
- (医) 宝美会綜合青山病院
- 本多電子 (株)
- (医) 元町病院
- (株) 物語コーポレーション
- ヤマサちくわ (株)
- (医) 栗山会飯田病院
- 老人保健施設 明陽苑
- (株) ワルツ
- 愛知県豊橋警察署
- (株) イシグローイング
- エイティエイト (株)
- エイティエイト (株) 春日井工場
- NPO法人 東三河自然観察会
- ガーデンガーデン (株)
- こども未来館 ここにこ
- 豊橋祇園祭奉賛会
- 豊橋市民病院
- 西田メディカルクリニック
- 福井脳神経外科
- LACLE FLORISTS
- リトルバード
- ワタナベローズナーセリ

（敬称略順不同）

豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科
●短期大学部 キャリアプランニング科

〒440-8511　愛知県豊橋市牛川町松下20-1　渉外部キャリアセンター
TEL.050-2017-2104（直通）　FAX.050-2017-2112（直通）
インターネット［URL］ http://www.sozo.ac.jp/ ［E-mail］ job@sozo.ac.jp

［交通案内］

■ 豊鉄バス
豊橋駅乗り場から乗車（所要時間15分）
「豊橋創造大学正門」下車、徒歩1分
（土・休日のみ「創造大東」下車、徒歩1分）

■ 豊川インターチェンジより車で約15分